

新宮山彦ぐるーぷ第1927回―1

春季連休中の行仙宿への来宿舎の対応と

行仙岳北面段差と笠捨山撤き道(旧通信道)修復作業など

◇実施日：平成29年4月29日(土・祝)～5月01日(月)

4月29日(土・祝) 快晴。

◇参加者：川島 功、梶野照雄。

2名。

川島は、行仙宿登山口に7時半に到着。荷物は三日分の着替えと食料等で約16kgありM機を使用した。

終点に荷を置き、後で来る梶野氏が荷上げに使う事からM機駐機場に戻し、空身で終点に上り、荷を担いで行仙宿に8時半に到着。

行者堂で安全祈願すると共に幟を立てた後、管理棟・倉庫を開けると共に宿内を点検する。

しばらく休憩後、水場へ下りる。岩場が濡れ滲み出る程度で、溜り水を汲む状態であり、雨が降らなければ多量の飲み水は確保が出来ない状況になると思われる。

先般(4/21)の行仙岳北面段差の事前調査で、木杭が約10本必要である事から、木杭に適する径の丸太や割木が無く、木杭にするため割木を鉄楔で2分し、チェーンソーで先付けして作製する。一斗缶に大ハンマーと木杭8本を入れ、行仙岳北面の石柱道標下の修復する段差地点に運び、11時過ぎに行仙宿に戻る。

昼食用のお湯を沸かしていると、梶野氏が11時20分頃に行仙宿に到着。

丸太をチェーンソーで板挽き製材する為に、ネットで検索して板挽きするためのガイド金具を作製し持参。昼食を勧めたが、ガイド金具を使って美味しく板挽き出来るか試す必要があると、即試し切りの作業をされたので、川島1人で昼食。

昼食後12時に、木杭と棧木を担いで行仙岳北面へ。チェーンソーが正常に作動しないと分解されていたが、直った様でチェーンソーの音が風に乗って聞こえてくる。

修復重点箇所は、石柱道標から下の急斜面の木製段差で、倒れた杭を起し、腐った木杭を交換し大ハンマーで打ち込む。

この斜面は、土質の層が深く、雨や雪・霜柱等で土が流れたり木杭が浮き上がる状態になり、毎年修復する必要がある共に正常な木杭も全て大ハンマーで叩き、打ち込み直す作業が必要になる。



修復前



修復後



修復前



修復後



修復前



修復後

石柱道標から行仙岳頂上迄の横棧木・段差の木杭も、全て大ハンマーで叩いて打ち込直す事から、一人作業だったので疲れた。行仙岳山頂で小休止。昨年採取したコシアブラの芽が、未だ固い蕾のままであり、恒例の山菜の天麩羅は振舞うことが出来ない。

行仙岳山頂で小休止後、頂上から下ると行者姿の椎木・今野両氏と再会し握手をする。

両氏は、新宮市速玉大社から歩いて、山上ヶ岳・大峯山寺開扉式(5月3日午前三時)出仕する為に、順峰の大峯奥駈行をなされている方で我々の会友でもある。満行されまます様にと見送る。

15時前に行仙宿に戻ると同時に、寒気の南下で不安定な天候になり雨が降るとの予報通り、急に雷鳴があり雨が降り出すがぐに止んだが、16時半頃にも一時的に雨が降る。



行者装束の会友

丸太から板挽き製材

本日の来宿者と

来宿者は、楊子の宿から来た1名で、3年前に逢った事がある愛知県日進市のトヨタのエンジニアであると言われ、すっかり忘れていた。

梶野氏は、体のあちこちが木粉まみれなので「きなり湯」で洗い流し、夕食して戻ると一旦下山。

20時過ぎに3人が集い、談笑を惜しみ21時頃に就寝。

行動タイム

登山口 7:30→8:30 行仙宿 9:00→水汲み→9:30 行仙宿→木杭作製
→10:15 行仙宿 10:20→行仙岳北面→11:10 行仙(宿昼)12:00→北面
段差修復→14:20 行仙岳 14:25→14:55 行仙宿。

4月30日(日・祝) 快晴午後15時過ぎに一時雨。

◇参加者：川島 功、梶野照雄、山上皓一郎、生熊敏男、橋本 梓、
沖崎吉信、児嶋道夫、大江加予子、畑林清子、奥村順夫。
上村洋司・和美(前鬼)、河野芳宏(奥駈中)。 13名。

毛布3枚でも寒く寝にくかった、室温度は9℃。

来宿者に行者堂内の安置仏像と掲額を説明し5時半頃に見送る。
発電機を作動させ、パック御飯をチンして、温泉卵・味噌汁・
鰯の味醂干しで朝食。

チェンソーでの板挽きは、梶野氏に一任して、川島は笠捨山捲き道(旧通信道)の修復へ。大ハンマーと電源開発(株)から寄贈頂いた「くい丸(1m)」5本を持って7時20分行仙宿を発つ。

分岐から横棧木と木杭を大ハンマーで叩き直しながら辿る。
斜面に倒れこんだ横棧木の木杭を抜いて、略元通りの位置に木杭を打ち直し、腐った木杭は「くい丸」に替える。

横棧木が4カ所で倒れ、内1箇所は斜面下に落ちている。2
箇所は1人では作業出来ない、この地点から戻り10時過ぎに行仙宿着。上村夫妻が前鬼から踏査(昨夜持経宿泊)して9時過ぎに着き、薪割を手伝い、車の迎えがあり11時過ぎに下山。



棧木が浮いた修復前

修復前

修復後

10時10分頃に橋本・児嶋・大江・畑林さんが、M機を戻し

た沖崎が少し遅れて行仙宿に到着。
 早速、児嶋、橋本氏は、梶野氏のチェンソーによる板挽きを手
 伝われる。

大江・畑林さんは、「修復・役行者尊像」開眼供養の直会食事は、
 外注せずに自分達で賄って下さるとの有難い申し出があり、赤飯
 を炊く大釜ガス炊飯器の点検及び湯呑、茶碗等の食器の点検と宿
 内及び管理棟内の調査整理をして下さる。

飛び入りの奥村氏が、トイレット紙補給と鯉幟を揚げに来たら、
 宿泊組の山上・生熊氏の食料を持たされて、重たかったと11時
 半頃に行仙宿に上って来る。お陰でサポートに下りずに済んだ。
 程なく、山上・生熊氏が到着し、10名が揃って昼食。



板挽き手伝い

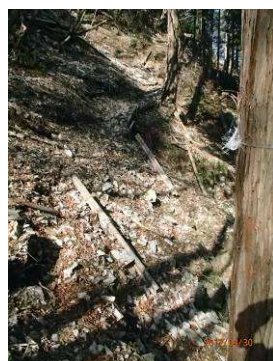
10名揃って昼食・談笑中

沖崎・児嶋・橋本・川島は、旧通信道修復へ、大ハンマー、棧
 木引揚げのザイル・鋸・トンガ・くい丸10本を持って12時4
 0頃に行仙宿を発つ。

最初に、棧木の落ちていた箇所を修復で、児嶋・川島はザイル
 で引揚げの間に、沖崎・橋本氏は傍に在った間伐杉材を棧木に使
 うため枝を切り落す。「くい丸」を使って修復する。

棧木の木杭を叩き直しながら23鉄塔の分岐を過ぎ、支谷を横
 切るガラ場に据える棧木調達に付近か捜すが見つからず、沖崎氏

が立ち枯れ杉材を見つけ、伐採して棧木に使う事にする。
 この地点に大ハンマー2丁とトンガ1丁を置き、作業を終え1
 4時半頃に行仙宿に戻る。



棧木が落ちた箇所・修復前

修復後



支谷の修復前

杉棧木した修復後

豪勢なすき焼き夕食



しばらく休憩後、日帰り組(沖崎・児嶋・大江・畑林・奥村)と
 梶野氏が下山する際に、水場は溜まり水状態なので、登山口の
 水場から水を汲みM機で上げ、終点から荷上げする事にする。

橋本氏が水を汲んでM機終点へ。生熊・来宿者(各7名)、川島(10
 名)、橋本氏(1名)が、担ぎ計38名補給した。

3日予約が一日早くなったと言う金沢市の女性を含め9人が来
 宿した、予約者は上段へ。金沢市の女性は、玉置神社売店に宿泊
 する手配した青木・沖崎氏に、一日早くなったので再度手配をお

願っていたと、先刻下山した沖崎の帰宅を待つて電話連絡された。

単独女性の2名は、ツェルト持参で適当な所で寝ると15時前でも通過するなど、男性登山者も通過が多い。天候が良すぎると出来るだけ先へと進み、適当な場所でテント泊する事になる。天候が悪いと小屋に泊まるうかになるのだが・・・。

夕食は、牛肉たっぷりの豪勢なすき焼きで、来宿者と食事することが叶わず管理棟で夕食にする。川島が、時折来宿者にLED点灯・毛布等の使用方法や小屋に関する話等しに行き来する。

18時頃に昨夜金剛多和でテント泊、吉野迄奥駆すると言う河野氏が管理棟に挨拶に来る。一緒に夕食を共にする。管理棟で5名は狭いので、河野氏に行仙宿に移って寝てもらおう。21時前には、早立ちの人が多いので既に消灯されていた。

5月01日(月) 快晴

◇参加者：川島 功、山上皓一郎、生熊敏男、橋本 梓、山口泰宏、青木宏充。 6名。

来宿者に夜明けのコーヒを飲んで貰おうと4時半前に起きる。大半が起きて食事をされており5時半には皆出発した。

朝食は、夕食残りのすき焼き丼と味噌汁・焼き魚であるが、昨夜思わぬ会友が増えたので具は少なく汁井になる。

山上さんは朝食の後片付け、生熊さんは出仕聖護院の丸太椅子6個作りをして頂く。橋本・川島は、旧通信道の修復に出発。

24 鉄塔の斜面の崩れが激しく、此処は木杭が下の岩盤に支えて効きが悪く崩れやすい所であるが修復する。

鉄塔ベンチで休憩後、更に10分程進み、木の根元にハンマーを置き9時20分頃に引き返し10時10分過ぎに行仙宿に戻る。

しばらく休憩後、11時頃から昼食になる。昼食はレトルトカレーであるが、川島は残っている味パンにする。



栈木を叩き直す

24 鉄塔付近の修復前

24 鉄塔横の修復後

橋本・川島は12時15頃より登山口の水を汲みに下ると、第二ベンチ下辺りで、11時半に登山口に着き食事をして登って来られた、交代者の本日宿泊の山口さんと出会う。



穴の開いた栈木に副える木切る

本日の作業者

二人で計28畧を補給する。82才の橋本さんは、同じ荷を背負い、むしろ追われる位に担ぎ上げられ、その体力に恐れ入る。

本日作業者の記念撮影を済ませ、「後は宜しく頼み」14時過ぎに橋本・川島が下山すると、ガラ場下辺りで予定外の青木さんとすれ違う。「金沢市の女性着いているか」と聞かれ、一日速い昨日宿泊されたと伝え別れ、16時過ぎに帰新した。(記 川島)